

教科・科目	国語総合・現代文	4(2)単位	対象学年・組	1学年全クラス
教科書	第一学習社 標準国語総合	教科担任	市川・高橋	

1 目 標

現代文の様々な教材の読解・鑑賞を通じて、人間や社会に対する認識を深めるとともに、思考力と表現力を高める。

2 学習の到達目標

中学校での学習内容をふまえ、漢字を含めた基礎的な国語に関する知識を定着させる。また、現代の文章を鑑賞し、理解する力を養わせる。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一 学 期	「世界は謎に満ちている」手塚治虫 「水の東西」山崎正和 漢字・慣用表現	18	随想の読解・鑑賞 評論の読解・鑑賞	国語を学ぶ上での注意点の説明オリエンテーション 漢字・慣用表現の確認 筆者のものの見方や考え方
二 学 期	「人はなぜ仕事をするのか」内田樹 「羅生門」芥川龍之介 「道程」高村高太郎 「I was born」吉野弘 「二十億光年の孤独」谷川俊太郎	32	評論の読解・鑑賞 小説の読解・鑑賞 詩の読解・鑑賞	筆者のものの見方や考え方 論理的思考の習得 様々な文化や社会への関心や考察 作品の背景や心理状況の展開 文学的な表現の読解
三 学 期	「卒業ホームラン」重松清 「清水へ」短歌	20	小説の読解・鑑賞 短歌の鑑賞	作品の背景や心理状況の展開 作者の心情や情景描写の理解

4 学習方法と生徒への注意

- ・毎時間、教科書・漢字テキストを必ず持ってくること。
- ・復習として、ノートを見直して自分で内容を確認し、理解できていないことを必ず次回の授業で質問すること。

5 評価の観点・方法

確認テスト、提出物、漢字テスト、授業態度、出席状況を総合的に見て評価する。

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
		○			○		○	○	

令和3年度 年間授業計画 都立蒲田高等学校

教科・科目	国語総合 古典（1学年）	4（2）単 位	対象学年・組	1学年全クラス
教科書	第一学習社 標準国語総合	教科担任	市川 ・ 高橋	

1. 目 標

古典作品の読解・鑑賞を通じて、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、思考力と表現力を高める。

2. 学習の到達目標

中学での学習内容をふまえ、内容を着実に把握するための音読や文法学習を効果的に行なう。

また、古典の文章に親しみ、生徒自身による主体的な鑑賞ができるようにする

3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
一 学 期	前 半	「古文を読むために」 「宇治拾遺物語 児のそら寝」	9	古文読解の基礎 説話の読解	古典を学ぶ上での注意点 授業オリエンテーション 説話の面白さを理解する
	後 半	「竹取物語」	9	物語の読解・鑑賞 作品の背景と文学史	古文の表現を味わう 文学史上の物語について
二 学 期	前 半	「伊勢物語 東下り」 「徒然草」	1 6	歌物語の読解・鑑賞 作品の背景と文学史 和歌の理解 随筆の読解	登場人物の心情を理解する 和歌の技法について
	後 半	「訓読に親しむ」 故事成語	1 6	漢文の基礎について	漢文の仕組みを理解する 故事成語の成り立ち
三 学 期		「絵仏師良秀」 「論語」	2 0	説話の読解 漢文読解の基礎 漢文の読解・鑑賞	人物・情景の描写 漢文の音読 内容の的確な把握

4. 学習方法と生徒への注意

- ・ 毎時間、教科書・単語帳・便覧・ノートを必ず持ってくること。
- ・ 板書したことは正確にノートに書き写ること。
- ・ 復習として、ノートを見直して自分で内容を確認し、理解できていないことを必ず次回の授業で質問すること。

※ 授業の方法と生徒が学習する上での注意事項を箇条書きで。

5. 評価の観点・方法

確認テスト、提出物、小テスト、授業態度、出席状況を総合的に見て評価する。

※ 生徒がわかるように具体的に。

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技 能	思考力・判 断力	課題発見 力・解決力	生涯学習 力	表 現 力	技能技術 力	読 解 力	鑑賞する 力	資料活用 する技能
		○			○		○	○	

教科・科目	現代文B	単位	対象学年・組	2学年全クラス
教科書	第一学習社 標準現代文B	教科担任	狩俣 有香	

1 目 標

現代文の様々な教材の読解・鑑賞を通じて、人間や社会に対する認識を深めるとともに、思考力と表現力を高める。

2 学習の到達目標

1学年での学習内容をふまえ、漢字を含めた基礎的な国語に関する知識を定着させる。また、文章読解を通じて自分自身で考えた意見・感想を表現する能力を身に付けさせる。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一 学 期	大脇三千代「わたしは あなただったかもしれ ない」 俵万智「情けは人の… …」	27	随筆の読解・鑑賞	オリエンテーション 漢字学習の確認 随筆の表現方法の理解 論理的思考の習得 慣用句、ことわざなどの言語理解 様々な文化・社会への関心や考察
二 学 期	榎本博明「鏡としての 他者」 芥川龍之介「鼻」	48	評論の読解・鑑賞 小説の読解・鑑賞	筆者の主張の理解 他者の思考理解と自身の思考の表現 論理的思考の習得 近代の代表的な文学作品の鑑賞 作品の背景や心理状況の展開の理解 小説世界と自分を引きつけた鑑賞
三 学 期	宮沢賢治「永訣の朝」 言語活動「創作の楽し み・短歌と俳句」	30	詩の読解・鑑賞・創作活動	詩歌の表現の理解、表現技法の習得

4 学習方法と生徒への注意

- ・毎時間、教科書・漢字テキスト、便覧、ワークシートを綴じたファイルを必ず持ってくること。
- ・復習として、ノートやワークシートを見直して自分で内容を確認し、理解できていないことを次回の授業で質問すること。

5 評価の観点・方法

確認テスト、提出物、小テスト、授業態度、出席状況を総合的に見て評価する。

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技 能	思考力・判 断力	課題発見 力・解決力	生涯学習 力	表 現 力	技能技術 力	読 解 力	鑑賞する 力	資料活用 する技能
		○			○		○	○	

令和3年度 年間授業計画 都立蒲田高等学校

教科・科目	古典A <small style="text-align: center;">必修・選択</small>	2 単位	対象学年・組	2 学年全クラス
教科書	第一学習社 標準古典A	教科担任	西澤 黒野 長谷川	

1. 目 標

古典作品の読解・鑑賞を通じて、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、思考力と表現力を高める。

2. 学習の到達目標

1 学年での学習内容をふまえ、内容を着実に把握するための音読や文法学習を効果的に行なう。
また、古典の文章に親しみ、生徒自身による主体的な鑑賞ができるようにする。

3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学期	前半	「古今著聞集」	9	古文読解の基礎 和歌の読解	2 学年で古典を学ぶ上での注意点 の説明オリエンテーション
	後半	「竹取物語」	9	物語の読解・鑑賞 作品の背景と文学史	過去・完了の助動詞 敬語の役割の理解
2 学期	前半	「大和物語」	1 6	物語の読解・鑑賞 作品の背景と文学史	過去・完了の助動詞 敬語の役割の理解
	後半	漢文訓読の復習 「推敲」「絶句」	1 6	漢文読解の基礎 漢文の読解・鑑賞	漢文の音読 内容の的確な把握
3 学期		「源氏物語」	2 0	物語の読解・鑑賞 作品の背景と文学史	古文の音読 人物像の把握

4. 学習方法と生徒への注意

<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間、教科書・ノート・便覧を必ず持ってくること。 ・ 板書したことは正確にノートに書き写ること。 ・ 予習として、本文をノートに書き写し、古文単語の意味調べをすること。 ・ 復習として、ノートを見直して自分で内容を確認し、理解できていないことを必ず次回の授業で質問すること。

※ 授業の方法と生徒が学習する上での注意事項を箇条書きで。

5. 評価の観点・方法

確認テスト、提出物、小テスト、授業態度、出席状況を総合的に見て評価する。

※ 生徒がわかるように具体的に。

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○			○		○	○	

教科・科目	現代文B	2単位	対象学年・組	3学年全クラス
教科書	第一学習社 標準現代文B	教科担任	黒野なつ美 西澤十洋	

1 目 標

現代文の様々な教材の読解・鑑賞を通じて、人間や社会に対する認識を深めるとともに、思考力と表現力を高める。

2 学習の到達目標

2学年での学習内容をふまえ、漢字を含めた基礎的な国語に関する知識を定着させる。また、現代の文章を鑑賞し、理解する力を養う。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一学期	「卒業」魚住直子 「記憶のゆがみ」高橋雅延 漢字・慣用表現	18	小説の読解・鑑賞 評論の鑑賞	3学年で国語を学ぶ上での注意点の説明オリエンテーション 漢字・慣用表現の確認 小説の鑑賞・論理的思考の習得 文学的な文章の読解
二学期	「デューク」江國香織 現代文B まとめ 漢字・慣用表現	32	小説の読解・鑑賞 読解、語彙に関する1・2学期の学習内容の確認	筆者のものの見方や考え方 作品の背景や心理状況の展開 今まで学習した内容を復習し、定着させる。
三学期	現代文B まとめ	20	読解、語彙に関する1・2学期の学習内容の確認	今まで学習した内容を復習し、定着させる。

4 学習方法と生徒への注意

- ・毎時間、教科書・漢字テキスト等の副教材を必ず持ってくること。
- ・復習として、ノートを見直して自分で内容を確認し、理解できていないことを必ず次の授業で質問すること。また課題を確実に提出すること。

5 評価の観点・方法

確認テスト、提出物、漢字テスト、授業態度、出席状況を総合的に見て評価する。

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
		○			○		○	○	

令和3年度

年間授業計画

都立蒲田高等学校

教科・科目	国語表現 3年必修選択	2単位	対象学年・組	3学年1～6組 選択者
教科書	国語表現改訂版(大修館)	教科担任	黒野 狩俣 高橋 長谷川	

1. 目標

様々な表現方法の学習を通じて、人間のコミュニケーション技術に対する認識を深めるとともに、思考能力・表現能力を高める。入試に役立つ小論文を書く

2. 学習の到達目標

2学年での国語表現の学習内容をふまえ、「話す、書く」という国語表現に関する力を更に伸ばす。自分自身で考えた意見・感想を適切な言葉で表現する能力を身につけさせ。卒業後も使える知識を伝える。

3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	前半	書いて伝える	10	接続表現・指示表現を学ぶ。 文章を推敲し、読みやすくする。	接続表現・指示表現を正しく使用し論理的な文章を書けるように心がける。
	後半	自己PRと面接	8	志望理由書・自己PR文・面接対応について学ぶ。	入試を意識するように心がける。
2 学期	前半	小論文・レポート入門	16	テーマ型小論文・課題型小論文について学ぶ。	将来の進路を意識して書くように心がける。
	後半	会話・議論・発表	16	小論文で培った表現力を活かし、聞き手に対して説得力のある語り方を学ぶ。	伝える力だけでなく、聞く態度も養う。
3 学期		表現を楽しむ	20	さまざまな表現技術を学ぶ。	卒業後に役立つ知識を得る。

4. 学習方法と生徒への注意

- ・毎時間、教科書・配布されたプリントは必ず持ってくること。
- ・指示された課題は必ず毎時間こなし、提出すること。
- ・読書や新聞を読むことを通し、活字に親しむよう努力すること。

5. 評価の観点・方法

提出物、課題作成状況、小テスト、授業への参加姿勢・態度、出席状況を総合的にみて評価する。

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
		○			○		○	○	○

教科・科目	国語総合（3学年自由選択）	2単位	対象学年・組	3学年選択者
教科書	標準国語総合（第一学習社）	教科担任	長谷川	

1 目 標

国語の学習を通じて、人間や社会に対する認識を深めるとともに、思考力・表現力を高める。

2 学習の到達目標

1・2学年での学習内容をふまえ、基礎的な国語に関する知識を定着させる。また、自分自身の意見・感想を適切な言語で表現する能力を身に付けさせる。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一 学 期	問題演習	18	漢字（読み・書き・類義語・ 対義語） 慣用表現 文学史	3学年で国語を学ぶ上での注意点の説明 オリエンテーション 漢字学習の確認
二 学 期	問題演習	32	漢字（読み・書き・類義語・ 対義語） 慣用表現 文学史	漢字学習の確認 慣用表現の確認
三 学 期	問題演習	20	感想文・発表・まとめ	表現技法の習得 意見

4 学習方法と生徒への注意

- ・毎時間、教科書・漢字テキストを必ず持ってくること。
- ・復習として、ノートを見直して自分で内容を確認し、理解できていないことを必ず次回の授業で質問すること。

5 評価の観点・方法

提出物、漢字テスト、授業態度、出席状況を総合的に見て評価する。

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
		○			○		○	○	

令和3年度 年間授業計画

都立蒲田高等学校

教科・科目	古典A（3学年必選）	2単位	対象学年・組	3学年全クラス 選択者
教科書	第一学習社 標準古典A	教科担任	西澤	

1. 目標

古典作品の読解・鑑賞を通じて、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、思考力と表現力を高める。

2. 学習の到達目標

2学年での学習内容をふまえ、内容を着実に把握するための音読や文法学習を効果的に行なう。

また、古典の文章に親しみ、生徒自身による主体的な鑑賞ができるようにする。

3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	「徒然草」	9	古文読解の基礎 随筆文の読解	3学年で古典を学ぶ上での注意点 授業オリエンテーション
	後 半	「枕草子」	9	随筆の読解・鑑賞 作品の背景と文学史	過去・完了の助動詞
2 学 期	前 半	「大鏡」	16	物語の読解・鑑賞 作品の背景と文学史	敬語の役割の理解
	後 半	「更級日記」	16	日記文学の読解・鑑賞	古文の音読 人物像の把握
3 学 期		故事「助長」 「画竜点睛」	20	漢文読解の基礎 漢文の読解・鑑賞	漢文の音読 内容の的確な把握

4. 学習方法と生徒への注意

- ・毎時間、教科書・ノート・便覧を必ず持ってくること。
- ・板書したことは正確にノートに書写すること。
- ・予習として、本文をノートに書き写し、古文単語の意味調べをすること。
- ・復習として、ノートを見直して自分で内容を確認し、理解できていないことを必ず次回の授業で質問すること。